

倉敷中央病院産婦人科研修プログラム

(2018年4月 専門研修開始用)

1. 専門研修プログラムの理念・使命・特徴
2. 専門知識/技能の習得計画
3. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
4. コアコンピテンシーの研修計画
5. 地域医療に関する研修計画
6. 専攻医研修ローテーション(モデル) (年度毎の研修計画)
7. 専攻医の評価時期と方法(知識、技能、態度に及ぶもの)
8. 専門研修管理委員会の運営計画
9. 専門研修指導医の研修計画
10. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)
11. 専門研修プログラムの改善方法
12. 研修終了後の進路
13. 専門研修プログラムへの応募

1. 倉敷中央病院産婦人科研修プログラムについて

産婦人科専門医は、生殖・内分泌領域、婦人科腫瘍領域、周産期領域、女性のヘルスケア領域の4領域にわたり、十分な知識・技能を持ったうえで、以下のことが求められています。

- ・標準的な医療を提供する。
- ・患者から信頼される。
- ・女性を生涯にわたってサポートする。
- ・産婦人科医療の水準を高める。
- ・疾病の予防に努める。
- ・地域医療を守る。

倉敷中央病院産婦人科は、地域の中核病院として、また教育病院としてこれまで診療、研究、教育に力を入れてきました。平成16年に新臨床研修制度が開始されて以降、当院での初期研修終了医師及び、外部での初期研修終了医師の後期研修を指導し、数多くの優秀な産婦人科医を育ててきました。「倉敷中央病院産婦人科研修プログラム」は、これらの実績をもとに、2018年度からの新専門医制度に合わせた形で産婦人科専門医を育成するためのプログラムとなっており、以下の特徴を持ちます。

- ・高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群。
- ・サブスペシャルティ領域までカバーする、豊富で質の高い指導医。
- ・実践を重視した研修。
- ・質の高い臨床研究の指導。
- ・女性医師も継続して働けるように、労働環境を十分配慮。
- ・厳しい中にも楽しく学べる環境

2. 専門知識/技能の習得計画

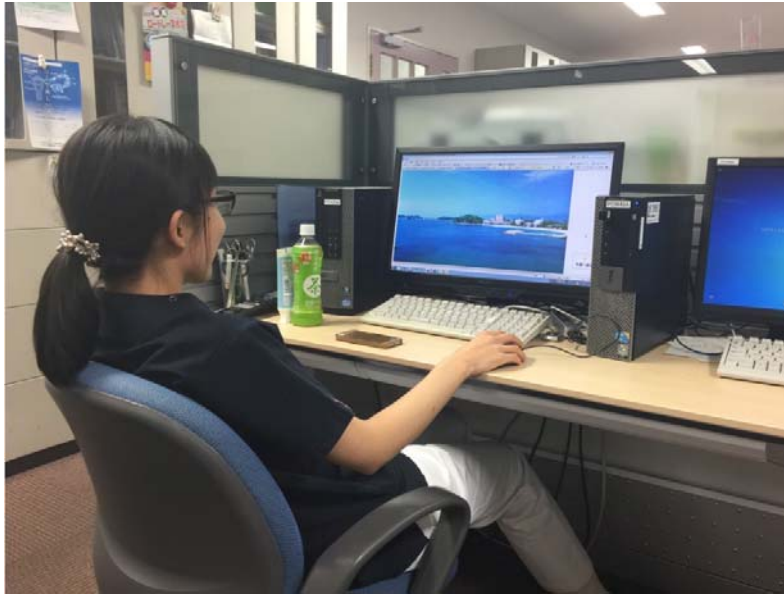
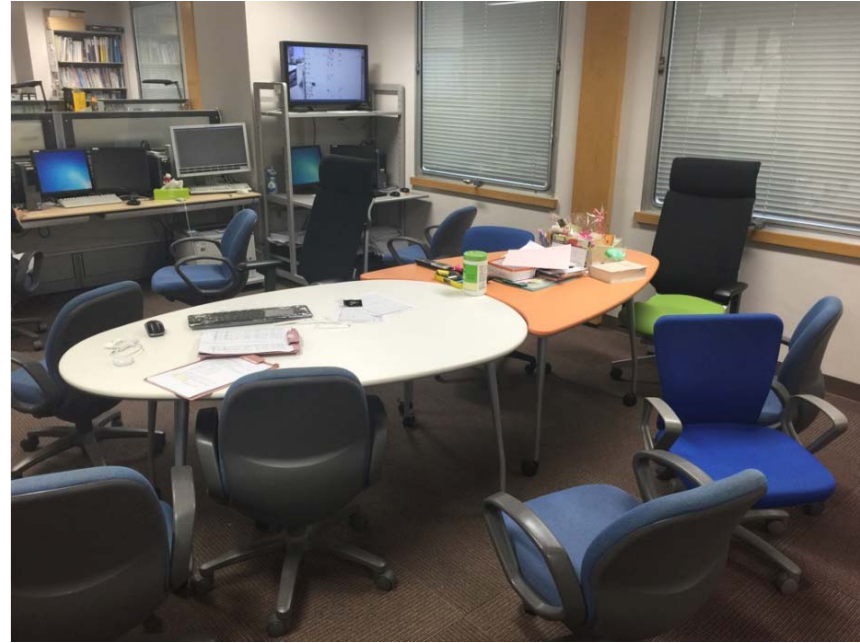
日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会により、習得すべき専門知識/技能が定められています(資料1「産婦人科専門研修カリキュラム」および資料2「修了要件」参照)。

* 基幹施設である倉敷中央病院産婦人科には医局と一体化したカンファレンス室があり、多数の最新の図書を保管しています。そしてインターネットにより、院内のすべての端末から国内外のほとんどの論文がフルテキストで入手可能です。毎週月・火・木・金が手術日です。水曜日17時から小児科との周産期カンファレンス及び産婦人科カンファレンスを行い、周産期症例の検討、報告、婦人科症例の診断・治療の理論を学びます。さらに他科との合同カンファレンスとして、月に一回、産婦人科病理・画像カンファレンス、産婦人科放射線治療カンファレンス、全科対象のオンコロジーボードが開催されています。そして日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児学会、中四国産科婦人科学会などの学術集会に専攻医が積極的に発表し、スライドの作り方、データの示し方について学べるようにします。

* 当プログラムでは、すべての基幹並びに連携施設において1週間に1度の診療科におけるカンファレンスおよび1ヶ月に1度の勉強会あるいは抄読会が行われています。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	モーニング ミーティング 病棟・手術 コルポスコピー 産科総回診	モーニング ミーティング 手術	モーニング ミーティング 病棟 コルポスコピー 羊水検査	モーニング ミーティング 病棟・手術 コルポスコピー	モーニング ミーティング 手術	隔週
午後	病棟・手術 子宮卵管造影	手術	病棟 婦人科総回診	病棟・手術 子宮卵管造影 病理・放射線 カンファ (1回/月)	手術	
夕方	放射線治療 カンファ (1回/月)		周産期カンファ 医局カンファ	病棟カンファ (2回/月) 病理・放射線 カンファ (1回/月)		



3. リサーチマインドの養成・学術活動に関する研修計画

研究マインドの育成は、診療技能の向上に役立ちます。診療の中で生まれた疑問を研究に結びつけて公に発表するためには、日常的に標準医療を意識した診療を行い、かつその標準医療の限界を知っておくことが必須です。修了要件(資料2)には学会・研究会での1回の発表および、論文1編の発表が含まれています。

広く認められる質の高い研究を行うためには、良い着眼点に加えて、正しいデータ解析が必要です。そして学会発表のためには、データの示し方、プレゼンの方法を習得する必要があります。さらに論文執筆にも一定のルールがあります。倉敷中央病院産婦人科には多数の研究実績があり、当プログラムにはそれを経験してきた指導医から適切な指導を受けることができます。

当プログラムでは、英語論文に触れることが最新の専門知識を取得するために必須であると考えており、論文は可能であれば英文での発表を目指します。原則として、基幹施設である倉敷中央病院において、日本産科婦人科学会等の学会発表および論文執筆を目指し、さらに連携施設在籍中も積極的に学会発表および論文執筆を目指します。

倉敷中央病院では、臨床研究、倫理に関する講習会が定期的に行われており、これらを通じて研究の手法についての基礎を学ぶことができます。

4. コアコンピテンシーの研修計画

医療倫理、医療安全、感染対策の講習会を各1単位(60分)ずつ受講することが修了要件(資料2)に含まれています。

倉敷中央病院では、医療安全、感染対策に関する講習会が定期的に行われており、それぞれ1年に2度の受講が求められています。さらに医療倫理に関する講習会も定期的に行われています。したがって、倉敷中央病院での研修期間中に、必ずこれらの講習会を受講することができます。さらにほとんどの連携施設で、これらの講習会が行われています。



5. 地域医療に関する研修計画

産婦人科研修の中で、専門医制度委員会が定めた地域医療実施病院にて、1ヶ月以上の地域医療を経験することが求められています。当プログラムの研修施設群の中で、高松赤十字病院および赤堀病院において地域医療を経験できます。高松赤十字病院は地域の中核的病院であり、症例数も豊富です。赤堀病院は地域の第一線を担う病院で、おもに産科症例について学べます。

当プログラムの専攻医は、高松赤十字病院もしくは赤堀病院で少なくとも一度は研修を行い、外来診療、夜間当直、救急診療、病診連携、病病連携などを通じて地域医療を経験します。なお、高松赤十字病院においては地域医療のみならず、婦人科手術も含めた通常の産婦人科研修も合わせて行うことが可能です。



6. 専攻医研修ローテーション

*年度毎の標準的な研修計画

・1年目；内診、直腸診、経膈・腹部超音波検査、胎児心拍モニタリングを正しく行える。上級医の指導のもとで正常分娩の取り扱い、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術ができる。婦人科の病理および画像を自分で評価できる。

・2年目；妊婦健診および婦人科の一般外来ができる。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については上級医に確実に相談できる。正常分娩を一人で取り扱える。上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術、腹式単純子宮全摘術ができる。上級医の指導のもとで患者・家族へのICができる。

・3年目；帝王切開の適応を一人で判断できる。通常の帝王切開であれば同学年の専攻医と一緒にできる。上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開ができる。上級医の指導のもとで癒着があるなどやや困難な症例であっても、腹式単純子宮全摘術ができる。悪性手術の手技を理解して助手ができる。一人で患者・家族へのICができる。

・これらは、標準的な研修計画であるが、研修の習熟度に沿ってより進んだ内容を研修することができる。

* 研修ローテーション

専門研修の開始は、原則として基幹施設である倉敷中央病院で2年間研修を行い、2年目もしくは3年目に連携施設で研修を行います。なお地域医療を経験できる施設(高松赤十字病院もしくは赤堀病院)で少なくとも1ヶ月は研修を行う必要があります。3年間の研修で、産婦人科専門医取得を目指します。3年間の研修終了後、さらにサブスペシャリティ研修をはじめとする研修を希望する場合に1-3年をめどに修練医(仮称)として研修することも可能です。



研修施設群

基幹施設 倉敷中央病院

総合周産期母子総合センター(MF-ICU 6床、NICU 21床、GCU 30床)

がん診療連携拠点病院

救命救急センター

病床数 1161床 手術室 29室

救急車受入れ 9125件／年

年間婦人科良性腫瘍手術 365件

年間婦人科悪性腫瘍症例 90件

年間分娩数 1263件

年間帝王切開数 444件

年間体外受精件数 167件



研修施設群

連携施設 静岡県立総合病院

がん診療連携拠点病院

年間婦人科良性腫瘍手術 267件

年間婦人科悪性腫瘍症例 120件

年間分娩数 415件



連携施設 高松赤十字病院

地域周産期母子医療センター

がん診療連携拠点病院

年間婦人科良性腫瘍手術 196件

年間婦人科悪性腫瘍症例 31件

年間分娩数 719件



連携施設 京都大学医学部附属病院

がん診療連携拠点病院

地域周産期母子医療センター

年間婦人科手術件数 585件

年間婦人科悪性腫瘍症例 150件

年間分娩数 339件

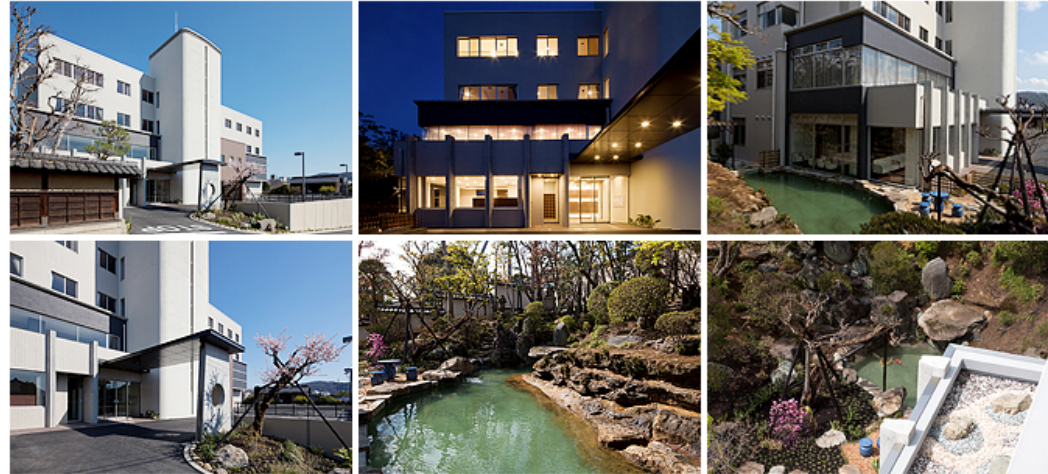


研修施設群

外観・中庭

連携病院 赤堀病院

年間分娩数 566件
年間帝王切開 93件
年間婦人科手術 72件
年間採卵 79件
年間胚移植 89件
年間マンモグラフィー 3275件



待合室・ラウンジ



7. 専攻医の評価時期と方法

* 到達度評価

研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものです。当プログラムでは、年間の経験症例等の研修内容について、指導医がチェックします。また毎年3月末までに態度および技能についての評価を行います。態度についての評価には、自己・指導医による評価に加えて、施設ごとの産婦人科の指導責任者による評価が含まれています。それらの内容は、プログラム管理委員会に報告され、専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となります。また、評価のフィードバックが指導医から行われます。

* 総括的評価

専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末時点での研修記録および評価に基づき、研修修了を判定するためのものです(修了要件は資料2に記載)。自己・指導医による評価に加えて、手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認します。態度については、看護師長などの他職種からの評価も受けるようにします。

専攻医は専門医認定申請年の4月末までに研修プログラム管理委員会に修了認定の申請を行います。研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修終了証明書を専攻医に送付します。そして専攻医は各都道府県の地方委員会に専門医認定試験受験の申請を行今す。地方委員会での審査を経て、日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会で専門医認定受験の可否を決定します。

これらのシステムについてはオンラインのシステムが構築されています。

8. 専門研修管理委員会の運営計画

当プログラム管理委員会は、基幹施設(倉敷中央病院産婦人科)の指導医2名と4力所の連携施設担当者の計6名で構成されています。プログラム管理委員会は、毎年1回委員会会議を開催し、さらに通信での会議も行いながら、専攻医および研修プログラムの管理と研修プログラムの改良を行います。

主な議題は以下の通りです。

- ・専攻医ごとの専門研修の進め方。形成的評価・総括的評価のチェック、修了判定。
- ・翌年度の専門研修プログラム応募者の採否決定。
- ・連携施設の前年度診療実績等に基づく、次年度の専攻医受け入れ数の決定。
- ・専攻医指導施設の評価内容の公表および検討。
- ・研修プログラムに対する評価や、サイトビジットの結果に基づく、研修プログラム改良に向けた検討。

9. 専門研修指導医の研修計画

日本産科婦人科学会が主催する、あるいは日本産科婦人科学会の承認のもとで連合産科婦人科学会が主催する産婦人科指導医講習会が行われます。そこでは、産婦人科医師教育のあり方について講習が行われます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須となっています。

さらに、倉敷中央病院産婦人科では、かねてより産婦人科コースの初期研修医の指導にあたっており、産婦人科スタッフは、初期研修医の指導医資格を有しています。

現在当プログラムの産婦人科指導医は14名となっています。

10. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

当プログラムの研修施設群は、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」(平成25年4月、日本産科婦人科学会)に従い、「勤務医の労務管理に関する分析・改善ツール」(日本医師会)等を用いて、専攻医の労働環境改善に努めるようにしています。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従っています。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を受けます。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は当プログラム研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

近年、新たに産婦人科医になる医師は女性が6割以上を占めており、産婦人科の医療体制を維持するためには、女性医師が妊娠、出産をしながらも、仕事を継続できる体制作りが必須となっています。日本社会全体で見ると、現在、女性の社会進出は先進諸国と比べて圧倒的に立ち遅れています。わたしたちは、産婦人科が日本社会を先導する形で女性医師が仕事を続けられるよう体制を整えていくべきであると考えています。そしてこれは女性医師だけの問題ではなく、男性医師も考えるべき問題でもあります。

当プログラムでは、ワークライフバランスを重視し、夜間・病児を含む保育園の整備、時短勤務、育児休業後のリハビリ勤務など、誰もが無理なく希望通りに働ける体制作りを目指しています。

11. 専門研修プログラムの改善方法

総括的評価を行う際、専攻医は指導医、施設、研修プログラムに対する評価も行います。また指導医も施設、研修プログラムに対する評価を行います。その内容は当プログラム管理委員会で公表され、研修プログラム改善に役立っています。そして必要な場合は、施設の実地調査および指導を行います。また評価に基づいて何をどのように改善したかを記録し、毎年日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に報告します。

さらに、研修プログラムは必要に応じて日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会からのサイトビジットを受け入れます。その評価を当プログラム管理委員会で報告し、プログラムの改良を行います。研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に報告します。

専攻医や指導医が専攻医指導施設や専門研修プログラムに大きな問題があると考えた場合、当プログラム管理委員会を介さずに、いつでも直接、下記の連絡先から日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に訴えることができます。この内容には、パワーハラメントなどの人権問題が含まれます。

e-mailアドレス: chuosenmoniseido@jsog.or.jp

住所: 〒104-0031 東京都中央区京橋3-6-18 東京建物京橋ビル4階

公益社団法人日本産科婦人科学会 中央専門医制度委員会

12. これまでの倉敷中央病院産婦人科後期研修医の 研修終了後の進路

沼津市立病院

がん研有明病院

岡山大学

兵庫県立がんセンター

京都大学

聖隷浜松病院

国立成育医療研究センター

近畿大学

滋賀県立成人病センター

聖路加国際病院

日本バプテスト病院

中国中央病院

大阪赤十字病院

大阪府立母子保健総合医療センター



13. 専門研修プログラムへの応募

① 採用方法

倉敷中央病院産婦人科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月からをめぐり次年度の専門研修プログラムの公表と説明会等を行い、産婦人科専攻医を募集します。また、随時見学を受け入れます(後述の医局秘書、もしくは人事課に要連絡)。翌年度のプログラムへの応募者は、8月中旬ごろまでに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『倉敷中央病院産婦人科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。申請書は(1) 倉敷中央病院のwebsiteよりダウンロード、(2) 医局秘書に電話で問い合わせ(086-422-0210代)、(3) 医局にe-mailで問い合わせ(mh6186@kchnet.or.jp 長谷川雅明)、のいずれの方法でも入手可能です。10月以降に試験及び面接を行い、採否を決定し、本人に文書で通知します。定員に満たない場合には、追加募集することがあります。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに、以下の専攻医氏名を含む報告書を、倉敷中央病院専門研修プログラム管理委員会および、日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、日産婦会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度(初期臨床研修2年間に設定された特別コースは専攻研修に含まない)
- ・専攻医の履歴書
- ・専攻医の初期研修修了証